

移動・空間・時間研究会

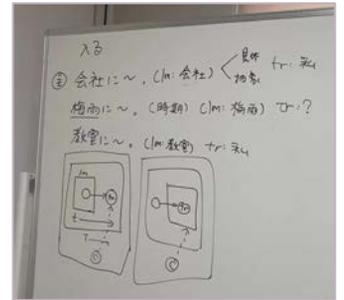
◎YIN Yuqi(言語教育情報研究科M2)、◎DU Tianyi(文学研究科D4)、◎山本晃子(言語教育情報研究科M2)、ZHAO Wuyang(文学研究科D1)、XUE Yuanminxiu(文学研究科M2)、川畑祐貴*(京都大学文学研究科D2)、寺倉大智*(言語教育情報研究科M1)
◎代表者、◎副代表者、*客座メンバー

目的

本研究会は、世界の言語(主に日本語・中国語・英語)を対照しながら、認知言語学(認知意味論)を援用し、言語の空間時間認知の一端を明らかにする。

言語学分野で、英語では解明が進んでいる認知言語学(認知意味論)を利用した移動表現、空間時間認知についての理論が、どのように中国語、日本語研究に適用できるのか。

*右図は読書会でイメージスキームを用いて「入る」の意味を分析しています。



定期的な読書会

『認知意味論』
(松本編 2003)
を主な資料として扱い、毎週の月曜日にメンバーがそれぞれ自分の読書感想を発表する。



各自の興味関心のあるテーマを持ち寄り、論文やメンバー自身の研究成果を発表する。

定期的な論文勉強会

トコロの多義性を通じて見た言語、認知、論理

The future precedes the past:
Time in Toba*

Spatial time in the West and the East

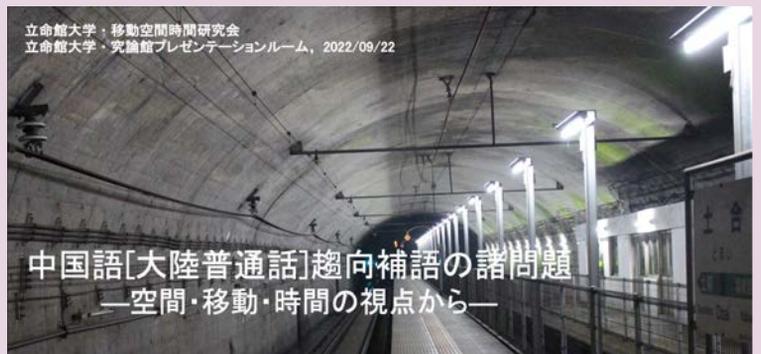
時間の前後関係としての日本語テンス・アスペクト：「V たまえ」
「Vるあと」がなぜ言えないのか

学外の先生を招いた特別講演会

「移動・空間・時間研究会 第1回講演会」
August 30, 2022

移動・空間・時間の認知と(言語)表現

深田智
(京都工芸繊維大学)



研究会実績

- メンバーらの修士論文、博士論文(執筆中)
- 印雨琪(2022)「日本語の移動事象表現「経路動詞+てくる」についての考察—「着いてくる」はなぜ言いにくい—」, 『Studies in Language Science Working Papers』第12号, pp.1-13